

この町で素敵な「<sup>ミライ</sup>未来」を描く方をご紹介します。



ひとりひとりの個性を大切に  
温かく成長を見守りたい。

白鷹町立荒砥小学校 教諭

小松<sup>こまつ</sup> 朱璃<sup>あかり</sup>さん（十王在住）



今回ご紹介する小松さんは、現在自身の母校でもある荒砥小学校で、特別支援学級の担任を務めています。

特別支援学級では、障がいによる学習上または生活上の困難を克服するための特別な指導を、児童のニーズに応じて行います。

小松さんが子どもたちと関わる時に大事にしていることは、寄り添う姿勢だと言います。「子どもたちと接する時は、自分の考えを押し付けるのではなく、『あなたの気持ちや考えを教えて』と寄り添う姿勢を崩さないように心がけています。とことん寄り添い、思いを共有し合う時間を丁寧にとることで、子どもたちとの信頼関係を築いていくことができると思っています」と、一方面的価値観の押し付けだけが教育ではないことを教えてくれました。

また、仕事のやりがいについて伺うと、「私は、子どもたちと笑い合っている時間に、幸せを感じ

ひとりひとりに合わせた  
支援に努めています



ます。楽しい時間はもちろん、苦しい時間とともにするからこそ、小さいことでも『できた!』と一緒に喜び合うことができますし、その笑顔から元気をもらっています」と話してくれました。

また、白鷹町で育つ子どもたちに対しては、「白鷹町では、魅力的な伝統や文化が多く受け継がれていると感じます。そうした伝統や文化、そしてそれに携わる人々ともたくさん触れ合い、『白鷹町ってどんな町?』と聞かれた時には、この町の素敵なところをたくさん語れる人になってほしいです」と願いを語ってくれました。

